| | |
|---|---|
| 開催地名 | 秋田県 秋田市 |
| 開催日時 | 令和7年2月1日(土)10:00～11:30 |
| 開催場所 | 秋田市役所　5階　正庁 |
| 語り部 | 大内　幸子(宮城県仙台市) |
| 参加者 | 秋田市中央地区内の自主防災リーダー78名 |
| 開催経緯 | 本市を含む全国各地で災害が激甚化・頻発化しているなかで、防災に対する関心は高まっているものの、高齢化などにより、十分に活動が行えていない組織や組織の結成に消極的な地域があることから、実際に活発的な活動をしている組織の活動内容を直接聞く機会を設け、地域防災力の向上の参考としたい。 |
| 内容 | ■はじめに<br>1. 自己紹介<br>講演者の大内氏は、仙台市宮城野区福住町に在住し、防災活動に取り組んでいる。これまで避難所運営や防災訓練の指導を行い、特に女性や多様な立場の人々に配慮した防災対策の重要性を発信してきた。<br>2. 福住町について<br>高砂小学校区は五つの小学校、三つの中学校、二つの高校が点在し、七北田川と梅田川に挟まれた地域である。過去に水害が多発しており、災害時の避難経路や備蓄体制の整備が進められている。<br><br>■あの日のこと(過去の災害経験と対応)<br>福住町は過去にいくつかの大規模な災害を経験してきた。<br>1986年の水害(台風10号)<br>台風10号の影響で集中豪雨が発生し、402ミリの降水量を記録。多くの住宅が浸水し、住民は避難を余儀なくされた。しかし、当時は避難所の体制が十分に整っておらず、対応が後手に回る状況となった。この経験から、地域住民の間で防災の必要性が認識されるようになった。<br>2004年 新潟中越地震<br>町内会が中心となって支援物資を届ける活動を行い、地域住民が互いに助け合うことの重要性を実感した。<br>2011年 東日本大震災<br>避難所には2000人以上の避難者が集まり、物資不足が深刻化した。このとき、自主防災組織の存在により迅速な安否確認が可能となり、自助・共助の重要性が改めて浮き彫りになった。<br><br>■その後のこと(防災対策の強化と取り組み)<br>1986年の水害を受けて地域の防災意識は高まったものの、具体的な組織づくりには至らなかった。しかし、2003年に自主防災組織が設立され、地域住民の協力のもとで避難マニュアルの策定や安否確認のための名簿作成が進められた。これにより、災害発生時の対応がより迅速に行えるようになった。<br>また、毎年防災訓練が実施されるようになり、作成した名簿を活用した安否確認や、学校と地域、行政と連携した避難所運営のシミュレーションを行うなどの取り組みが続けられている。<br>特に、避難所運営における女性の参画の少なさが課題として指摘されていたため、女性防災リーダーの育成が進められた。現在では多くの女性が避難所運営に関わり、多様な視点を取り入れた運営が可能となっている。<br>近年では、気候変動による水害のリスクが高まっており、2015年、2019年、2023年とたびたび発生した水害を踏まえた対策が強化された。特に、早期避難の徹底が図られるようになり、2019年の水害では事前の呼びかけにより200名の住民が暗くなる前に避難所へ移動することができた。このような取り組みは、今後の災害対策のモデルケースとして期待されている。<br><br>■まとめ<br>これまでの災害経験を踏まえ、今後はさらに地域の防災力を高める必要がある。まず、災害時には行政の支援がすぐに届かないことが多いため、住民一人ひとりが「自助」の意識を持ち、日 |

| | |
|---|---|
| | 頃から備えておくことが重要である。また、地域全体で助け合う「共助」の精神を持ち、いざという時にスムーズに対応できるようにすることが求められる。<br>避難所運営に関しては、多様な人々が安心して避難できる環境の整備が不可欠である。特に、女性や高齢者、障がい者、ペットを連れた避難者への対応を充実させる必要がある。そのためには、地域の防災リーダーを増やし、多様なニーズに応じた訓練を実施することが求められる。<br>また、災害時の備蓄については、非常食や生活必需品を日常的に備蓄・消費する「ローリングストック」を活用し、常に一定の備えを維持することが重要である。さらに、自分の住む地域がどのような災害リスクを抱えているのかを把握し、ハザードマップを活用して適切な避難行動をとることが求められる。<br>最後に、防災訓練は一度行えば終わりではなく、継続して実施することで災害時の対応力を高めることができる。実際に災害が発生した際には、日頃の訓練の成果が生かされるため、地域全体で防災意識を高めることが重要である。<br>「防災は日々の積み重ねが重要であり、災害を他人事ではなく自分事として備えることが必要である」という意識を持ち続けることで、より安全な地域づくりが実現できるだろう。地域全体で支え合う体制を築くことこそが、未来の安心・安全につながる。実践的な訓練を重ね、いざという時に備えることが求められる。<br> |
| 開催地より | 災害発生時には、自助と共助が重要であることと、日頃の防災訓練の成果が災害発生時に生かされるという体験談から、訓練は非常に重要なものであると改めて強く認識するとともに、全員参加型として可能な限り多くの方に参加いただけるような工夫が必要だと感じた。他の組織の活動の参考になるよう、本日の講話内容を出前講座などの際に広く伝えていきたいと思う。 |